

## 窓

「窓」に寄せる思い  
 「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」  
 小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

「変わること」

研究・研修部長 小川 和英



先日、歯の詰め物がとれ、久しぶりに歯科医院に行ってきました。歯医者さんといえばツーンとする消毒薬のにおい、歯を削る機器に送るエアタービンのキューーンという高音、治療中神経を刺激する時の鋭い痛み、小学生だったころの強烈な思い出が未だに残っています。そんな歯科技術も日進月歩。「歯を削らない、抜かない、だから痛くない」が合言葉。できるだけ歯を削らない、神経を抜かない、抜歯をしない治療法や歯を残す虫歯・歯周病治療が、現在注目されている治療法だそうです。では、私たちが小学校だったころの学校には、どの様な思い出が残っているのでしょうか。そして、その思い出と、私たちが日々の教育活動を営む目の前の学校とを比べたとき、学校は、「自分のペースで学べる、おいてけぼりにされない、だから学力が身につく」という学習形態に進化しているのでしょうか。

本県では第7次福島県総合教育計画が策定され、令和4年度より令和12年度までの9年間で、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」を推進中であり、学びの在り方に根本的なメスをいれようとしています。それと呼応し、校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】が示され、教員が身に付けておくべき資質として、一方通行・画一的な授業等から、子供たちが、学ぶ意義を、学ぶ過程で自ら見いだしていけるような授業をつくる力をあげています。当センターではこのことを受け、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修に探究型の授業スタイルの構築をめざす講座を新設します。前者では、学びを自分事化するための課題の設定に焦点をあてた授業スタイルの基礎知識と技術を、後者では、教職経験10年間で蓄積した授業ノウハウを持ち寄り、指導主事と福島大学の教授をファシリテーターとして、協働の中で探究的な学びの充実に向けた授業改善の道を探っていくものとなりました。また、調査・研究の

一環として、「学び続ける力の育成」をテーマに、子供たちが学びを自分事化し、それを各自の成長につなげたり社会の課題解決につなげたりするための授業モデルを、協力校を舞台として指導主事と長期研究員の協働により実践研究を進め、その成果を県教育研究発表会や当センターHP等を通じて発信してまいります。

さて、免許更新制の発展的解消ともなう、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」がいよいよ来春から始まります。年度始めに校長先生との対話を通して伸ばしたい資質と必要な研修を選び、研修で得た成果を教育実践にいかし、年度末に資質の伸長度合いを振り返るものです。当センターとしましては、専門研修の募集締切をひと月遅らせ研修受講の便をはかるとともに、オンラインライブでの聴講制度を新たに設け受講枠を拡大します。研修コンテンツも豊富に準備しており、専門研修では、教科指導に関わるもの、ICT等情報に関わるもの、いじめや不登校等の生徒指導や教育相談に関わるもの等多数用意しております。土日に実施します自主講座では、一般の方にも対象を広げたロボットワークショップ、美術館での鑑賞講座や、授業実践の基礎を学び直す授業スキル講座も新設します。そして、専門研修や自主講座は教諭や養護教諭だけでなく、教頭、常勤講師等幅広く県内の先生方に開いていきます。研修の時間の確保が難しい方には、伸ばしたい資質に対応したオンデマンドコンテンツが検索できるサイトも新たに設けます。

「どうすれば嫌われない歯医者さんになれるのかなあ…？」ある歯医者さんのつぶやきです。「どうすれば毎日学校に行くことが待ち遠しい学校になれるのかなあ…？」私たちの切なるつぶやきです。私たち皆で挑戦すべきよりよき学校づくりのために、当センターをご利用いただければ幸いです。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター	〒960-0101	福島市瀬上町字五月田16番地
TEL 024-553-3141 (代表)		FAX 024-554-1588
URL <a href="https://center.fcs.ed.jp/">https://center.fcs.ed.jp/</a>		E-mail center@fcs.ed.jp

# 1人1台端末の日常的な利活用と授業における効果的な活用について

～ 令和4年度 チーム研究より ～



1人1台端末の活用は、どう取り組めば良いのかな？

情報教育チームでは、1人1台端末活用の在り方について研究をしています。一年次の成果として、リーフレット「1人1台端末の日常的な利活用に向けて」※1を作成しました。今年度は、そのリーフレットを活用し、「日常的な利活用」と「授業における効果的な活用」について調査・研究を行いました。研究協力校での取組を実践事例とともに紹介します。



※1 リーフレット <https://sites.google.com/fcs.ed.jp/iem>  
(福島県教育センター 情報教育チーム)



## まずは、「日常的な利活用」を推進しました。

### A：校内体制

#### ステップ0

学校管理職（校長・副校長・教頭）

学校管理職は、教育目標の実現や自校の教育課題を踏まえ、ICT活用の推進に向けたビジョンを示し、ICT推進チームを任命しました。

#### 学校管理職《ビジョン》

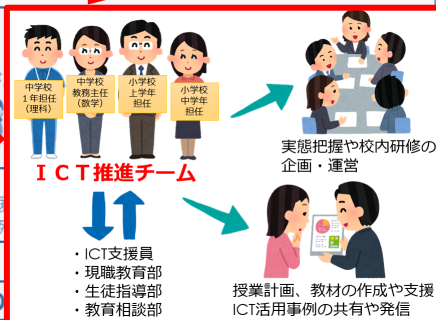
- 教育活動全般において、これまでの成果と課題を工夫改善し、より一層豊かな教育活動を展開する。
- 学習方法や学習内容の幅を広げ、協働的な学びと深い学びの実現を図る。
- 児童生徒の将来に役立つ情報活用能力を育成する。



### 管理職のリーダーシップのもと、ICT推進チームを構成

#### 《メンバー》

- ・授業力とマネジメント力のある教員
- ・ICT活用の実績がある教員
- ・小中連携の視点から授業構想ができる教員



### B：校内研修

#### ICT推進チーム

ICT推進チームと現職教育部が連携を図り、校内研修を実施しました。

提案授業

授業実践

利活用状況等の共有

#### 提案授業研究

授業参観と事後研究会の協議を通して、効果的な活用のイメージを膨らませることができました。

#### 利活用状況等の共有

授業や校務での利活用事例に加え実際に起きたエラーやトラブルその対処の方法、ICT支援員との連携等について情報共有を図ることができました。

### C：日常使い

#### 《日常使いで実践した取組》

- 朝食調べ（養護教諭⇒児童生徒）
- 学校評価アンケート（教頭⇒保護者）
- 現職教育アンケート（研修主任⇒教員）
- 教科自己評価アンケート（教科担当⇒児童生徒）
- 授業理解度アンケート（担任、教科担当⇒児童生徒）
- 道徳気持ちの変化（担任、教科担当⇒児童生徒）
- クラウドサービスを利用したデータ共有（教員）
- 学校祭アンケート（生徒会⇒全校生）
- 学級日記の記録（児童生徒）
- 地域広報誌への執筆（児童生徒）
- 学校祭のスライド作成（児童生徒）
- 学校祭等でのアンケート作成（児童生徒）

#### ICTの活用が習慣化されている

スライドの作成

メールの利用

タイピング練習

QRコードの作成

### 日常使いの取組とICT活用の習慣化

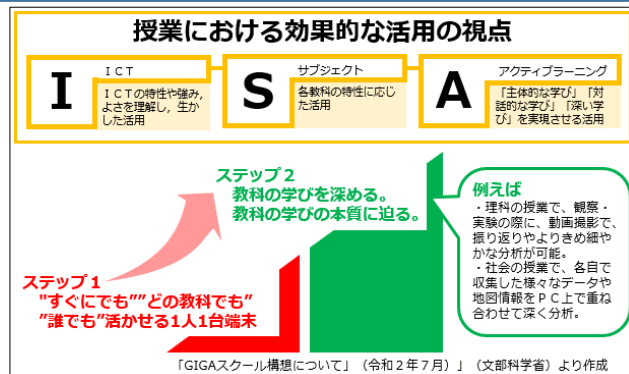
この学級では、朝登校時に1人1台端末を配付しています。それにより、休みの時間の利用が常態化していました。

日常使いの取組といつでも使える環境が、ICT活用スキルの向上につながりました。

## すると、「授業における効果的な活用」の場面が増えました！

GIGAスクール構想で示されている、学びの変容イメージの「ステップ2」につながる1人1台端末の活用を「授業における効果的な活用」としました。

ICTの特性や強み、よさを理解し（I）、各教科の特性に応じた活用（S）やアクティブラーニングを実現させる活用（A）を意識して授業を行うことが、「ステップ2」につながる1人1台端末の活用になると考え、3つの視点（I・S・A）を位置付け、授業実践を行いました。その一部を紹介します。



### ・小学校 第1学年 音楽「リズムとなかよし」

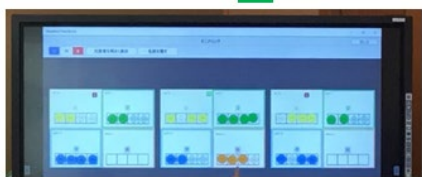
リズムづくりをさせるために1人1台端末へワークシートを送信し、個人とグループでリズムを創作し発表する学習活動を展開しました。自分の表現したいリズムを作成し、グループで合わせたものを録音して発表しました。リズムを可視化したことで、聴覚と視覚を働かせながら、工夫してリズムを表現することができました。



**I** データの共有



**A** 思考を深める学習活動



### ・小学校 第2学年 生活「まちたんけん」

町探検の計画を話し合わせるために、昨年の2年生が作成した資料を1人1台端末へ送信し、グループで意見を整理する学習活動を展開しました。蓄積されたデータを絵地図やWeb地図と比較しながら、訪問したい理由を明確にして計画を作成し、一人一人が主体的に発表することができました。



**A** データの比較



**I** 蓄積データの活用



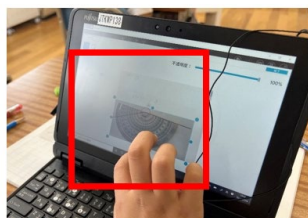
**S** 伝え合う表現活動

### ・小学校 第4学年 算数「角の大きさ」

角の大きさの理解を深めるために、ノートやワークシートの代わりにデジタル教材を1人1台端末へ送信しました。児童は、1人1台端末に分度器を当てながらシミュレーションを行い、試行錯誤を繰り返しながら、180度より大きい角度について考え、課題解決に迫ることができました。



**I A** デジタル教材の活用



**S** 端末に分度器をあてて確認

### ・中学校 第2学年 国語「行書の書き方を学ぼう」

行書の特徴に気付かせるために、毛筆の楷書と行書を比較する資料を1人1台端末へ送信し、意見を整理させる学習活動を展開しました。デジタルホワイトボードの付箋機能を活用して、行書の特徴について、グループで話し合いながら考えを整理したことで、点画の省略等に気付くことができました。



**I** 付箋機能の活用



**A** 意見交換、考えの整理



研究協力校では、「ステップ0（校内体制・校内研修・日常使い）」を位置付けることで、**教員や児童・生徒のICT活用スキルの向上**に繋がりました。またICT推進チームが中心となって校内研修を企画し実施したことで、教員が**日常使いの有効性についての理解**を深めるとともに、**授業で効果的に活用するスキル**を身に付けることができました。

詳しくは、福島県教育センター 研究紀要 第51・52集をご覧ください。



## 教育相談チームからの発信

### 一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談（第一年次） —協働的な支援を行うための教育相談コーディネーターの在り方—

今年度改訂された「生徒指導提要」では、困難課題対応的教育相談だけでなく、発達支持的教育相談・課題予防的教育相談（以下：先手型の教育相談）の重要性が強調されました。また、教育相談コーディネーター（以下：教育相談Co.）が、チーム学校での教育相談の要として位置付けられています。

そこで今年度は、先手型の教育相談を学校で行う際の、教育相談Co.の校内での動きを明らかにすることとしました。なお、詳細につきましては教育センターの研究紀要をご参照ください。

#### A小学校での取組

A小学校では、本チームと相談・連携を図りながら、教育相談Co.が主に以下の内容について取組を進めました。

1. 教職員の思いや考えを把握するためのアンケート作成・集計
2. 児童の強みや学校課題を把握するためのQ-U検討
3. 学校課題を解決するための年間プログラムの検討
4. 教職員の力量向上のための研修の企画・運営

先生方の思いを管理職に、管理職の思いを先生方に繋ぎながら、学校全体で取り組む先手型の教育相談について検討・提案することができました。

日常的に情報交換・共有がされているというA小学校のよい現状（強み）を踏まえつつ、本チームが依頼した教職員アンケートの結果とともに、教育相談Co.が教職員の実態把握を行いました。加えて、教育相談Co.が、自校児童のQ-Uの分析や支援法を検討する会を実施し、児童の強みと課題を全員で明確化・共有しました。

明らかになった強みと課題を基に、教育相談Co.が、Ssimpleプログラム実施の年間プログラムの検討を行ったり、Ssimpleプログラムを用いた校内研修を実施したりしたことで、先手型の教育相談について先生方の意識をより高めることができました。



A小学校の教育相談Co.

#### B中学校での取組

B中学校では、本チームと相談・連携を図りながら、教育相談Co.が主に以下の内容について取組を進めました。

1. 教職員の思いや考えを把握するためのアンケート作成・集計
2. 生徒の強みや学校課題を把握するためのQ-U検討
3. 既存の教育活動を生かした年間プログラムの検討

多忙な中、後回しになりがちだった先手型の教育相談について、先生方の関心や実践へのモチベーションを高めることができました。

B中学校では、生徒の問題行動の減少や不登校生徒等の増加により、教育相談に関する対応が多くなり、今まで行われてきた「生徒指導委員会」の在り方を見直すとともに、新たに「教育相談委員会」を立ち上げました。教育相談Co.は、その企画・運営に関わりました。また、A小学校同様、Q-Uの分析を取り入れ、学校全体の課題を明確にし、課題に対する具体的な手立てについて検討しました。

手立ての一つとして、B中学校がこれまで進んで活用してきたICT機器を用い、生徒同士の認め合う場としてICTを活用すること、また、年間プログラムにもそれを用いた活動内容と時期を位置付けられるよう教育相談Co.が検討・提案しました。



B中学校の教育相談Co.

まとめ：

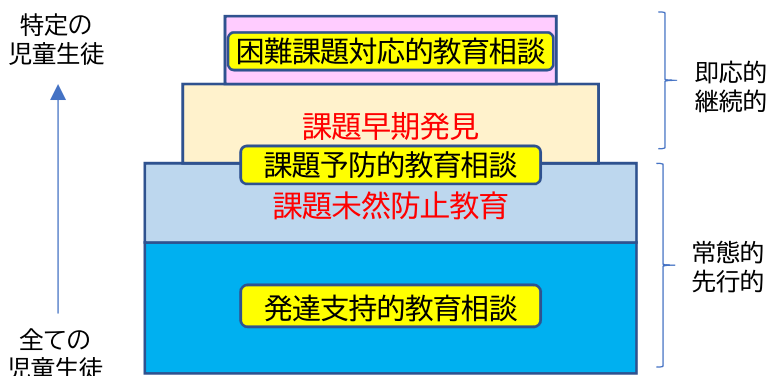
先手型の教育相談の提案における、教育相談コーディネーターの役割

- 教職員の实態とニーズの把握
- エビデンスに基づいた児童生徒の实態と支援ニーズの把握
- 学校課題の明確化
- 年間プログラムの原案作成と検討
- 校内研修の企画運営

# 令和5年度 教育相談系専門講座のご紹介

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書である「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂されました。学校における生徒指導・教育相談を進める上で、右図のような四層での指導・支援が求められています。

令和5年度は、本県の児童生徒の実態と四層の指導・支援を行う上で求められる資質の向上を図るため、以下の専門講座を設けています。先生方の受講をお待ちしております。



## 学校教育相談基本講座

- ◇1日の講座です。
- ◇午前は、学校教育相談の基本と相談面接における技法について学べます。児童生徒だけでなく保護者対応でも役立つ技法です。
- ◇午後は、Q-Uによる個人理解や集団理解のアセスメントの仕方を、外部講師による講義・演習を通して学べます。



## 学校が変わる! 解決志向で取り組む 学校教育相談実践講座

- ◇1日の講座です。
- ◇支援が必要な自校の児童生徒について、多角的・多面的に、そして解決志向的な視点で指導・支援の方向性を検討します。一事例30分で検討できるチーム会議の手法を紹介します。実際にその手法を用いて事例検討を行い、体験を通してスキルアップを図ります。



## 人間関係づくりに生かす 予防・開発的教育相談講座

- ◇1日の講座です。
- ◇学級・ホームルーム等で活用できる、よりよい人間関係を育むための予防・開発的教育相談の手法(構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等)を、外部講師による講義・演習を通して体験的に学べます。



## スマホ時代のいじめの理解と対応講座

- ◇1日の講座です。
- ◇午前は、いじめ防止対策推進法の理解を通して、いじめの認知や早期発見、対応の仕方等について学べます。
- ◇午後はワークショップ形式で行います。いじめに関する事例検討や、未然防止教育の教材を使った授業づくり、いじめが起きた際の具体的な対処等を学べます。



## 不登校の理解と対応講座

- ◇1日の講座です。
- ◇本県において不登校児童生徒の増加が喫緊の課題です。そのため、令和4年度から新設された講座です。
- ◇不登校に関する識者を外部講師にお招きし、不登校児童生徒及び保護者に対する指導・支援の在り方や、実際に不登校児童生徒に関わる際の技法等を学べます。



## 適切で責任ある行動力の育成を目指した 情報モラル教育講座 NEW

- ◇1日の講座です。
- ◇情報教育チームと一緒にそれぞれの得意分野を生かした講座を行います。
- ◇楽しいコミュニケーションの在り方などについて、ワークショップ形式で考えます。これから必要となる新たな情報モラル教育の指導法について学べます。



令和5年度 専門研修講座

**「言葉による見方・考え方」を働かせ、  
深い学びを実現する国語講座(小・中学校) 紹介**

ここでは、令和5年度に教育センターで実施を予定している小学校・中学校国語科専門研修「『言葉による見方・考え方』を働かせ、深い学びを実現する国語講座」について紹介します。

「言葉による見方・考え方」ってどう捉えたらよいのだろう…？

具体的に国語の指導では何をしたらよいのだろう…？

本講座では、そんな「言葉による見方・考え方」を働かせる指導の在り方を学びます。

- ・教材との出合わせ方を工夫して「主体的な学び」を引き出したい！
- ・ペアやグループでの話し合いを活発にさせたい！
- ・「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現させたい！

…このような思いにこたえる講座です。

期 日

小学校：令和5年9月4日（月） 中学校：令和5年7月13日（木）

内 容

- 「言葉による見方・考え方」を働かせる国語科授業について（講義）
- 「言葉による見方・考え方」を働かせる授業づくり（協議・演習）

対象者

小学校・中学校国語科・特別支援学校の先生方を対象としています。定員は小学校20名、中学校16名です。「言葉による見方・考え方」についての理解に自信がない先生方にも、これからさらに理解を深めたい先生方にも対応できる内容になっています。興味のある方は、ぜひ気軽な気持ちでお申し込みください。

**【これまでに受講した先生方の声を紹介します！】**

- 実際に作成した授業構想をもとに話し合う演習はとてもいい経験になりました。協議のときは、同じ教材でも、各先生方で言語活動の仕方や着目させたい語や言葉が異なり、とても刺激的な時間になりました。
- これまで「見方・考え方」、「深い学び」、「資質・能力」という言葉のイメージが曖昧なままでした。しかし、今回言葉のイメージをつかむことができ、今後の授業づくりに生かしていきたいと思えます。
- 「言葉による見方・考え方を働かせる」とは何か、「あー！こういうことなのか！」と、理解できました。改めて「国語っておもしろいな。」と感ずることができました。

令和5年度 新設専門研修講座

当センターでは、各学校や先生方のニーズに応えるべく、多くの専門研修講座を用意しています。令和5年度、様々な教育環境をめぐる変化に対応するため、教員研修チームとして以下の専門研修講座を新設します。

【高等学校 情報講座】

7月28日（金） 「問題の発見・解決に向かうプログラミング指導講座（Python・JavaScript 編）」

【小・中・高等学校 総合的な学習・探究の時間講座】

12月1日（金） 「児童・生徒が自己の生き方を考えていく総合的な学習・探究の時間授業づくり講座」

## 令和5年度 家庭科 専門研修講座紹介

### 家庭科の指導力向上をめざす基礎・基本講座(被服編)

**実施日** 8月9日(水) **場 所** 教育センター

**対象者** 小学校・中学校(免許外教科担任可)・特別支援学校の教員



小学校・中学校家庭科の実技指導に必要な基礎的・基本的な知識と技能を習得し、実践的な指導力の向上を目指すための講座です。今年度は衣生活分野について学びます。

講師に茨城大学 教授 木村美智子先生をお迎えし、主体的・対話的で深い学びの実現を図る衣生活分野の学習指導の在り方や生活を豊かにするための布を用いた製作について学びます。木村先生は新学習指導要領の改訂に携わるとともに、環境負荷を考えた洗濯方法や環境教育の視点に立った家庭科教育の研究をされています。ぜひ、木村先生のもとで勉強してみませんか。被服製作が苦手な方、免許外教科担任の先生も大歓迎です。

### 保育に関する指導の充実をめざす家庭科講座

**実施日** 11月9日(木)・10日(金)

**場 所** 11月9日(木) 各所属校〔オンライン〕  
11月10日(金) 教育センター

**対象者** 中学校・高等学校・特別支援学校の教員



中学校・高等学校家庭科における保育分野の専門的な知識や技能、指導法について学び、実践的な指導力の向上を図るための講座です。

近年の少子化による異年齢交流の減少や児童虐待等の問題により、青年期における家庭科の保育学習が重要視されています。中学校技術・家庭(家庭分野)の「A家族・家庭生活」では、少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、幼児との触れ合う体験などを一層充実するとともに、高齢者など地域の人々と協働することについて扱うことになっています。これからの保育学習は、親としての責任や役割を理解するだけでなく、家族や地域の人々とよりよく関わろうとする態度や家族や地域の人々と協力・協働しようとする態度を育成することが重要になってきます。

そこで、中学校・高等学校家庭科における「幼児の触れ合い体験」を含む保育学習の効果について研究をされている東京学芸大学 教授 倉持清美先生のオンラインによる講義を通し、「これからの保育学習に求められるもの」について学びます。

また、瀬上保育所 所長 小野美和先生を講師にお迎えし、保育現場側からの異年齢交流の在り方やコロナ禍における異年齢交流に向けた取り組みについて一緒に考えます。さらに、保育地域支援事業等の取り組みを含め「今日の幼児教育」についてもご講義をいただきます。



興味のある方は、ぜひ気軽な気持ちで参加してください!

# 令和4年度 福島県教育研究発表会

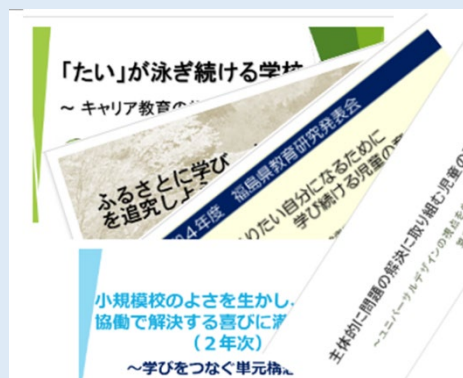
～ 明日の 福島の 教育をつくる ～

令和4年11月25日(金)に福島県教育研究発表会を、昨年度と同様にオンライン形式で開催しました。県内各学校の教諭、福島県教育庁義務教育課の指導主事、当センターの指導主事や長期研究員が、日頃の実践や研究成果を発表しました。また、経済産業省経済産業政策局産業資金課長(前・教育産業室長)浅野大介氏から講演「『未来の教室』のつくり方」をいただき、充実したものとすることができました。

各研究発表の概要については、当センターWebサイトに掲載しております。ぜひ御覧ください。

## 参加者の声

- ・GIGAスクール構想の意図や教育の方向性が分かりよかったです。
- ・学びの様々な形、考え方をまさに考えさせられたなと思いました。これからの教育の方法を幅広く考え、積極的に行っていきたいと思いました。



御後援を賜りました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会に厚くお礼申し上げます。

令和5年度福島県教育研究発表会(予定)

令和5年11月22日(水) 9時50分開会 各種研究発表及び講演

## 令和5年度 専門研修について

令和5年4月から、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が施行されます。

教育センターでは、令和5年度の専門研修について、申し込む講座について検討する時間を確保するために、申込締切日を昨年度より少し遅らせます。申込締切日は、学校種などで異なります。当センターから各学校に配付される「令和5年度 研修講座案内」や、受講者照会の文書を確認してください。

なお、研修講座毎に定員がございますので、ご希望に添えない場合があります。予め御了承ください。

また、令和5年度 研修講座要項は、令和5年3月17日(金)に当センターWebサイトに掲載する予定です。こちらも御確認ください。

## 新型コロナウイルス対策及び来所時のご注意

### 新型コロナウイルス対策

来所する場合は、事前に当センターWebサイトにあります「教育センターを利用される皆様へ」を御確認ください。

- ・健康チェックシートの提出
- ・マスクの着用
- ・来所時の手洗い 等

### 来所時のご注意

自動車で来所する場合は、仮設道路を通行することになり、進入・退出に時間がかかることがあります。詳しくは、当センターWebサイトを御確認ください

福島県教育センター  
Web サイト



<https://center.fcs.ed.jp/>